

対象国	<b>ザンビア</b>	感染症名	<b>HIV/エイズ</b>
-----	-------------	------	----------------



アルバート・ムワンゴさん 保健省ARVプログラムコーディネーター

**Q 現状の課題は？**

**A** 地方の保健センターを巡回してHIV/エイズの治療を行う“モバイルARTサービス”。少しずつ軌道に乗っていますが、一番の課題は運営資金の確保です。現在は、薬や車両、郡病院のスタッフの出張費などは国際社会の支援で支えられていますが、将来的には自国で賄えるようにしなければなりません。政府は少しずつ予算を引き上げており、自立したサービスの提供を目指しています。

**Q 日本の支援はどう役立っている？**

**A** 日本人専門家のサポートにより、現場から保健省にさまざまなデータが届くようになりました。例えば、HIV/エイズの母子感染について、1年間で何人の妊婦が健診に来て、そのうち何人がHIV検査を受け、何人が陽性、何人が治療を開始したといったデータを収集。これを基に、HIV陽性の妊婦全員に治療を提供するには追加予算や人材がどのくらい必要か推測し、対策を立てるなどの工夫をしています。



保健センターを訪問し、ボランティアから課題などを聞くムワンゴさん(左から2人目)



ビンセント・チペタさん 南部州カロモ郡保健局 HIV/エイズ・結核コーディネーター

**Q 地方の人々と接する難しさは？**

**A** 祈とうやまじないといった伝統的な治療が効くと信じて、HIV/エイズの薬を飲んでくれない人もまだいます。また、宗派によりますが、教会の教えとして薬を飲むことを禁じているところもあります。地域の人たちに正しい知識を伝えられるよう、村長などの影響力のあるリーダーに協力してもらうなど、コミュニティ全体を巻きこむよう心掛けています。

**Q 日本人との印象的なエピソードは？**

**A** 日本人専門家と保健センターを訪れ、カルテをチェックしていた時のこと。「HIV検査を受けた人の4分の3が陽性だが、この数値は合っているのか」と彼が指摘したのです。確かに、国全体の成人感染率14%と比較すると多すぎます。センターのスタッフに確認すると、検査キットの不足のため、感染が疑われる人だけの検査だったと判明。一つ一つのデータの意味をよく考え、分析する大切さを知りました。



駒田謙一JICA専門家と共に保健センターを巡回し、モバイルARTサービスの実施状況をモニタリング

対象国	<b>ニカラグア</b>	感染症名	<b>シャーガス病</b> ※
-----	--------------	------	-----------------



オクタビオ・レニン・ペレスさん 保健省国家シャーガス病対策プログラム調整官

**Q 一番大変なことは？**

**A** シャーガス病の原因となるサシガメは、家の土壁のひび割れや土の床などにひそんでいます。一番の被害者は、そういった家に住んでいる貧困層です。雨期にはデング熱やマラリアなど他の感染症も発生するため、私たちがどう頑張っても人が足りません。そこで活躍するのが地域の保健ボランティア。住民に対する予防啓発活動やサシガメの生息調査などに奮闘してくれています。

**Q これまでどんな対策を？**

**A** 保健省の職員が治療や対策の参考にできるよう、何をすべきかを部署ごとに規定した省令や業務マニュアルを刷新しました。また、特に力を入れているのが人材育成。保健ボランティアを対象に、土壁や床に石灰などを加え、サシガメが生息しにくいような家に修繕する技術などを指導しています。日本人専門家の皆さんもチームの一員。私たちが地域の人々にとって大変励みになっています。



家の壁に殺虫剤を散布し、状態をチェックするレニンさん(中央)



エベリン・メディーナさん トガルバ市保健センター医師 カジャントウ保健地区責任者

**Q 治療で困ることは？**

**A** シャーガス病の感染者は、投薬治療を始める前に、問診、尿検査、心電図検査などが義務付けられています。ただ、私が勤務する保健センターでは心電図やレントゲン機材がなく、県病院にお願いしなければなりません。でも、半日待たされたあげく「明日また来てください」なんてことも。検査が1日で効率的に終わるよう、県病院の担当者と密に連絡を取って調整しています。

**Q 日本の支援を通して学んだことは？**

**A** 特に予防対策について、研修を通じて理解を深めました。その一つが“監視システム”。住民が発見・捕獲したサシガメの情報を市の保健センターで記録・分析し、保健省や県の保健局と共有して対応策を決めるものです。また、以前はシャーガス病の妊婦さんが出産すると県病院で母子感染の有無を調べてもらっていましたが、検査方法を学んだことで、今では自分の保健センターですることができるようになりました。



地域の保健ボランティアにサシガメの監視システムについて説明

※吸血性カメシ「サシガメ」が媒介する感染症。感染から10～20年後に心臓疾患などを引き起こす。

特集 感染症  
守られるべき命

# 現場で直撃！ 感染症に立ち向かう人々

感染症で失われる命を守りたい。開発途上国には、強い意志を持ち、対策

を進める人々がいる。彼らがどんな思いで活動しているのか、本音を聞いてみよう。